

報道関係者各位

狛江フェスティバル 2026

今年は狛江駅南口へエリア拡大 — 13 年目で初めて駅の南側へ

子どもが主役の新会場、クラフトビール、縁日、音楽、阿波踊りなどを駅周辺 4 会場で展開

開催日	時間	場所	入場
2026 年 9 月 5 日（土） ・ 6 日（日）	12:00 ～ 20:00	小田急線 狛江駅周辺 （東京都狛江市）	無料

狛江フェスティバル実行委員会（会長：佐藤 高志）は、2026 年 9 月 5 日（土）・6 日（日）の 2 日間、小田急線狛江駅周辺で「**狛江フェスティバル 2026**」を開催します。2014 年の開始から数えて **13 回目**。2 日間で約 3 万人以上（実行委員会推計）が訪れる、狛江市内最大級の夏のイベントです。主催するのは、市内の商店主や商店会、郵便局、子育て支援団体、学生などが集まる**市民ベースの実行委員会**（実行委員 約 50 名）。狛江市は後援という立場で、企画から当日の運営までを市民と地域の事業者が担っています。

今年は、従来の狛江駅北口周辺に加え、**開催エリアを狛江駅南口へ拡大**します。新会場「**Komae South Square**」を設け、子ども向けの体験型ステージ、こども商店、ワークショップ、キッチンカーなどを展開します。

狛江駅周辺の 4 会場を舞台に、他にも、市内外のクラフトビールと地域飲食店が集まる「**KOMAE BEER FESTA**」、昔ながらの“まちのお祭り”の雰囲気を楽しめる「**こまえ夏まつり**」、新鋭の地域店舗やステージ企画が並ぶ「**Komae Street Terrace**」など、大人から子どもまで楽しめる催しを実施します。

泉龍寺会場の「**こまえ夏まつり**」は、狛江で古くから開かれてきた「**ほおずき市**」の流れを汲む祭りです。2005 年に「こまえ夏まつり」として再編され、2014 年の狛江フェスティバル開始に合わせて復活しました。長く受け継がれてきた祭りを土台に、子ども企画の拡充や狛江駅南口への進出など、時代に合わせた更新を重ねています。

2026 年の注目ポイント

- 01 狛江駅南口に新会場「Komae South Square」を開設
- 02 多摩センターで開催されてきた「東京多摩ファミリーフェスタ」と連携
- 03 子どもの挑戦、地域の食・文化、音楽・踊りを 4 会場で一体的に展開

狛江駅南口へ初めてエリアを拡大

狛江フェスティバルは 2014 年の開始以来、狛江駅北口側（泉龍寺・えきまえ広場・泉の森通り）で開催されてきました。今年は**初めて南口に進出**します。

新設する狛江駅南口会場「Komae South Square」では、日中は子どもたちが見るだけでなく、実際に参加・体験できるステージやワークショップを中心に展開します。南口の**交通島に特設ステージ**を設け、駅からロータリー周辺にかけて、キッチンカーや飲食・物販ブース、こども商店、子ども向けのくつろぎ・工作スペースなどを配置します。会場内にはミストトンネルや休憩場所も設け、暑さ対策を行いながら、子どもたちが安心してチャレンジできる場を目指します。

開催にあたっては**南口ロータリーを含む一部区間で車両の通行規制**を行い、バスは転回エリアを確保したうえで運行を継続します。小田急バス、警察、タクシー会社、周辺商店会、沿道の居住者との約 1 年にわたる協議を経て実現するもので、**狛江駅前の空間の使い方そのものを問い直す試み**でもあります。

夜は地域の伝統や文化を感じられる企画として、**9 月 5 日に盆踊り、9 月 6 日に阿波踊り**を実施する方向で調整しています。

「東京多摩ファミリーフェスタ」が狛江へ

南口エリアでは、これまで多摩センターで開催されてきた「**東京多摩ファミリーフェスタ**」を、狛江フェスティバルの一部として実施します。

東京多摩ファミリーフェスタは、「**子どもの夢を創る**」をテーマとしたファミリーイベントです。2023 年・2024 年には、多摩センターでそれぞれ約 5,000 人を集めました。パルテノン多摩の大規模工事の影響により新たな開催場所を検討していた同イベントと、南口での開催を模索していた狛江フェスティバルの方向性が合致し、今回の連携につながりました。次年度以降も狛江での開催を予定しています。

南口ステージは 12:00～17:00 を「**子ども向け体験型ステージ**」と位置づけ、“見るだけ”ではなく子どもが参加できるワークショップ型のプログラムを、1 組 40 分・1 日最大 7 組の構成で展開します。

子どもが遊び、挑戦し、まちと関わる

今年は子どもが主役の企画が過去最多規模で並びます。南口会場では、子どもたち 3 人 1 組が 1 時間交代で店番をする「**こども商店**」を実施し、接客・呼び込みから商品の補充、売上の集計までを子どもたちが担当します。会場ゲートを飾る風車は小学生からデザインを公募し、当日は霧吹きを持った「**ウォーターミスト部隊**」として会場を巡回します。狛江青年会議所は、熱中症対策として南口会場にミストトンネルコーナーを設けます。

また、**和泉小学校の子どもたちによる起業家教育**の一環として、子どもたちが企画したコーヒーのドリップバッグを販売します。泉龍寺会場では、**中学生・高校生が自ら企画・運営する出店**も予定しています。

企画	内容
こども商店	子どもたち 3 人 1 組が「ドリンク販売」「ポッチャコーナー」を 1 時間交代で運営。

企画	内容
	接客・呼び込み・商品補充・売上集計まで担当し、大人は見守りとお金の管理に徹する
和泉小学校 起業家教育	小学生が手がけたコーヒードリップバッグを販売。ステージでの PR タイムも予定
中高生企画	高校生 4 名・中学生 5 名の実行委員会が、6 月から複数回の会議を重ねて企画を自作。泉龍寺会場に出店
明治大学 寮生による出店企画	全国から集まる寮生が、自分の出身地の特産品と魅力を伝えるゲーム企画を出店
小学生ボランティア	会場ゲートを飾る風車のデザインを小学生から公募。熱中症対策の「ウォーターミスト部隊」としても活躍

狛江のビール、食、音楽、伝統文化が集結

狛江駅北口の**えきまえ広場**では、狛江を中心としたクラフトビール事業者と地域飲食店が集まる「**KOMAE BEER FESTA**」を開催します。狛江の和泉ブルワリー・籠屋ブルワリーをはじめ、**最大 12 のビール事業者**が集結し、今年は初出店のブルワリーも複数加わる予定です。さらにレイアウトを刷新し、**これまで分けていたビールブースと飲食ブースを交互に配置**する構成を採用。「1 杯とひと皿」を短い動線で楽しめる会場づくりに変えます。

泉龍寺では、飲食、縁日、ワークショップ、ステージを展開する「**こまえ夏まつり**」を開催します。「ほおずき市」の流れを受け継ぐ、狛江フェスティバルの原点となる会場です。

泉の森通りでは、地域の飲食店や物販店が並ぶ「**Komae Street Terrace**」と、親子が休憩や工作を楽しめる「**こどもひろば**」を展開します。会場内には、**南口ステージ、泉龍寺ステージ、ほこみちステージの 3 つのステージ**を設け、地域のダンス、音楽、伝統芸能、子ども向けの体験型プログラムなどを実施する予定です。

そのほか、9 月 6 日(日)には泉龍寺会場に石川県、熊本県関係者が運営する交流エリアを設置する予定です(5 日はパンフレット配布)。会場では義援金の受付も継続し、集まった義援金は**令和 6 年能登半島地震で被災した石川県と、令和 8 年熊本地震で被災した熊本県へ半分ずつ寄付**します(2025 年度実績：248,239 円)。

4 つの会場

狛江駅南口 Komae South Square【新設】 こども商店、親子向けワークショップ、体験型ステージ、キッチンカー。狛江青年会議所によるミストトンネルコーナー、狛江消防署の出展(9/5)、シルバー人材センター「狛もん」も。夜は盆踊り・阿波踊りを調整中。	えきまえ広場 KOMAE BEER FESTA クラフトビール事業者(最大 12 ブース)と地域飲食店(11~12 ブース)が集まる、ビールと食の会場。今年はビールと飲食を交互に配置する新レイアウトを採用。
--	---

泉龍寺 | こまえ夏まつり

飲食、縁日、ワークショップ、ステージを展開。わたあめ・輪投げ、ガラポン、焼鳥、かき氷、生ビール、おもちゃくじなど。中高生による企画、明治大学寮生の出店企画、石川県物産（9/6）も予定。ステージには地域のダンス・音楽団体が2日間で約30組出演。

泉の森通り | Komae Street Terrace・こどもひろば

竹林の通りに地域の飲食・物販店が日中／夜間の2部制で出店。ほこみちステージでのステージ企画、泉の森会館前には親子のくつろぎ・工作スペースを展開。

開催概要

名称	狛江フェスティバル 2026（第13回）
開催日	2026年9月5日（土）・9月6日（日）
開催時間	12:00～20:00（会場・企画により17:00または19:30まで）
会場	泉龍寺、えきまえ広場、泉の森通り、狛江駅南口
アクセス	小田急小田原線「 狛江駅 」下車すぐ（駅前一带がそのまま会場） ・登戸駅から2駅（和泉多摩川・狛江）／・成城学園前駅から2駅（喜多見・狛江） ※会場に来場者用駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください（臨時駐輪場あり）
入場料	無料（各ブースでの飲食・体験は有料。一部無料企画あり）
主催	狛江フェスティバル実行委員会
共催	狛江市商工会、狛江市観光協会、一般社団法人狛江まちみらいラボ
後援	狛江市、狛江市社会福祉協議会、狛江青年会議所、小田急電鉄株式会社、狛江市青少年委員の会議、狛江市教育委員会、日本郵便株式会社（狛江市内郵便局）
協力	泉龍寺、JAマインズ狛江支店、狛江市新聞同業者組合、狛江楽市、泉の森友の会、泉の森会館
公式情報	公式サイト： https://www.komae-fes.com/ 公式 Instagram： https://www.instagram.com/komae.festival/ 公式 Facebook： https://www.facebook.com/komaefestival/

※本資料は2026年8月18日時点の計画内容に基づいています。出演者、出店者、開催時間、各企画の内容は、今後の調整により変更となる場合があります。最新情報は公式サイト・公式SNSでお知らせします。

参考：狛江フェスティバルとは

- ・ **2014年**、狛江の産業と文化の振興、地域の活性化を目的に開始。今年で **13回目**
- ・ 泉龍寺会場の「こまえ夏まつり」は、狛江で古くから開かれてきた「**ほおずき市**」の流れを汲む祭り。2005年に「こまえ夏まつり」として再編され、2014年の狛江フェスティバル開始に合わせて復活

- ・ 実施目的：「狛江の産業と文化の振興を目的に、狛江の活性化を図る。来場者の楽しみを優先した様々な催しを取り入れ、幅広い年齢層に地域参加を呼びかけ、狛江の魅力を発信し賑わいの創出を図る」
- ・ コロナ禍の 2020 年はオンライン、2021 年は「街巡り」形式で継続。2022 年にリアル開催が復活
- ・ 2023 年の 10 周年で会場を 2→4 に拡大、出店者 47 店舗・来場者 3 万人超の規模へ成長
- ・ **2025 年実績**：来場者 約 3 万人以上（実行委員会推計）
- ・ 出店者は狛江市内に限らず、世田谷区喜多見・成城エリアや多摩地域、県外のブルワリーも参加
- ・ 運営の主体は市民・地域事業者による実行委員会（実行委員 約 50 名／狛江市は後援）。毎年 10 回以上の運営委員会を重ね、市内外のボランティアとともに企画・準備する

報道関係者からのお問い合わせ・取材のお申し込み

狛江フェスティバル実行委員会 広報担当：大石

メール：komae.festival@gmail.com 電話：090-1795-4571

公式サイト：<https://www.komae-fes.com/>

公式 Instagram：<https://www.instagram.com/komae.festival/>